

当社はもうすぐ100周年を迎えます。
当社の歴史や製品にまつわる収蔵品がある
博物館をご紹介します。

安川電機 & ミュージアム

第3回

石橋美術館

所在地 福岡県久留米市野中町 1015 (石橋文化センター内)

開館時間 10:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

休館日 毎週月曜日、年末年始

URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>

<博物館の概要>

石橋美術館はブリヂストンの創業者 石橋正二郎が郷里久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設として1956年に開館し、現在は石橋財団が運営しています。

坂本繁二郎、青木繁、古賀春江などの日本の近代洋画をはじめ、日本画、陶磁器類といったコレクションを所蔵しています。年に3~4回開催される企画展では、同財団のブリヂストン美術館が所蔵する印象派を中心としたコレクションなど、海外の画家の作品を含めて一級品の作品を身近に鑑賞することができます。

美術館の周囲には大きな池のある庭園になっており、四季おりの草花を楽しみながら散策できます。



本館展示室



坂本繁二郎《モートル図》

青木繁《わだつみのいろこの宮》1907年
重要文化財 石橋財団石橋美術館蔵



黒田清輝《針仕事》1890年
石橋財団石橋美術館蔵



<コレクションと当社の関わり>

創業者 石橋正二郎の学生時代の絵の先生だったといわれる坂本繁二郎の作品を同財団が多数所有しています。当社も1950年代に坂本画伯に制作を依頼した「モートル図」を現在も所有しています。淡い色彩で描かれた坂本繁二郎らしい作品ですが、そこに描かれているのはモータ。芸術になったモータは世界でも稀ではと思います。

この「モートル図」は1956年に発行された「安川電機40周年史」のグラビアを飾ったもので、当社から坂本画伯に制作を依頼した際に、モータをサンプルとしてアトリエへ持参して制作いただいたという逸話が残っています。持参したといっても、カバンに入る現在の小形サーボモータのようなものではなく、題材に使ったのは当時の一人ではとても持ち上げられないサイズの汎用モータでした。出来上がった「モートル図」は横幅が1m以上ある大きな絵画で、現在も本社内で大切に飾られています。2006年に開催された石橋美術館開館50周年記念の坂本繁二郎展では、「モートル図」も展示いただきました。

今回は美術館へと寄り道しましたが、北九州近郊では、公的美術館の先駆けとなった北九州市戸畑区の北九州市立美術館、藤田嗣治をはじめ印象派の絵画を所有する下関市立美術館、仁清の吉野山図茶壺など松永コレクションを有する福岡市美術館、そして今回ご紹介した石橋美術館と、質の高いコレクションを有する美術館があります。工夫をこらした企画展もそれぞれ開催されていますので、週末などに訪れてみてはいかがでしょうか。